

第 22 回日本在宅ホスピス協会  
全国大会 in 山梨

支え、支えられ  
自分らしく生きる

山梨県医師会介護保険・  
在宅医療担当理事  
富士厚生グループ名誉院長

第 22 回 HHA 全国大会  
大会長 小俣二也



《はじめに》

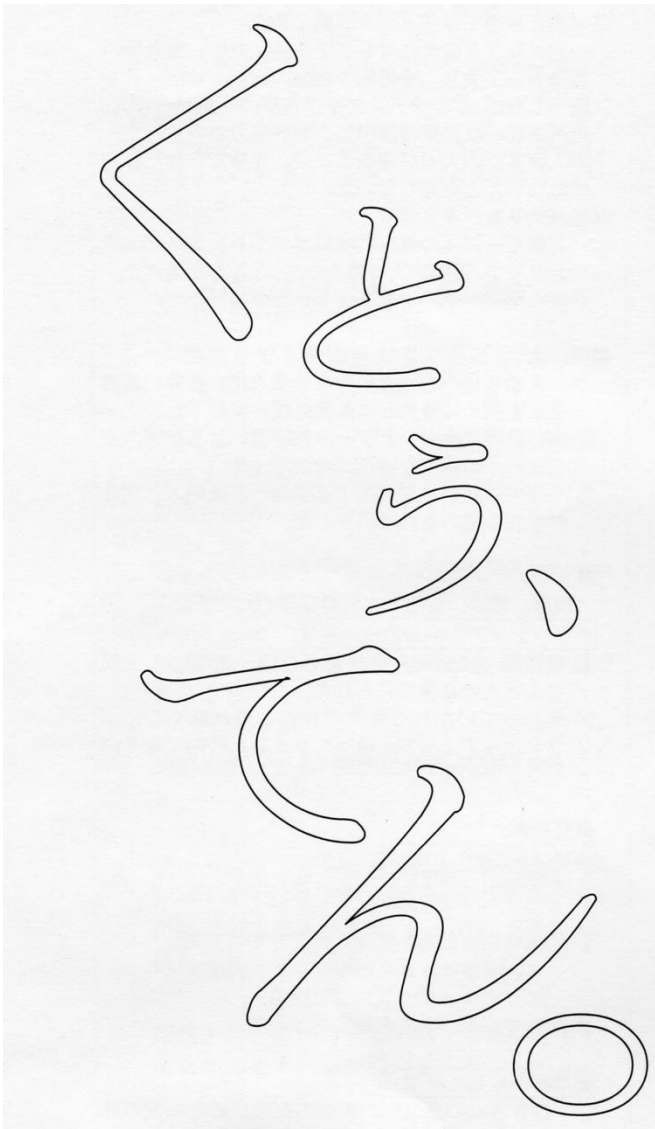
日本在宅ホスピス協会第 22 回全国大会を山梨で開催するというご指名を受け、平成 30 年 11 月、第 21 回日本在宅ホスピス協会全国大会 in 金沢に山梨多職種会のチーム山梨から、約 10 名の大会実行委員で参加させていただきました。

その後、山梨大会開催に向け、実行委員が一丸となり、準備を進めてまいりました。今、改めて振り返りますと、あつという間の 11 か月であったように感じています。まずは、山梨大会の開催にあたり、いろいろとご指導くださいました小笠原協会長ならびに前回の金沢大会長を務められた大和太郎先生に心より御礼を申し上げます。

今回のテーマは『支え、支えられ自分らしく生きる』としました。自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むのかを自分自身が前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有すること、すなわち「人生会議」の必要性を再確認する機会になればとの思いを込めました。今年は、「平成」が終わり、「令和」という新しい時代が始まりました。人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている新元号「令和」にふさわしい大会になるよう、ともに準備をすすめてくださった皆様、ご参加くださったすべての方々にこの場を借りて、厚く御礼を申し上げます。

【大会前夜】令和元年 9 月 27 日(金)

ウェルカムパーティーは約 60 名の皆様にご参加いただき、湯の国・山梨で最大規模を誇る石和温泉郷にある



日本在宅ホスピス協会会報 ●第 41 号●  
2019 年 秋号



今回のくとう、てんは…

9 月に開催いたしました全国大会について  
大会長の小俣二也先生にご報告いただきます。  
実行委員の皆様、ありがとうございました。

大変、盛況な大会になりましたこと  
心よりお礼申し上げます。



「ホテル春日居」で開催されました。

温泉大好きな小笠原会長はじめ、県内外からお越し下さった皆様を「チーム山梨として精いっぱいおもてなしする！」というミッションのもと、会場中に響き渡る

“ミスティ”のメンバーによる演奏や歌で大いに盛り上がり、明日から始まる大会への活力を養いながら第一夜は更けていきました。



## 【大会初日】9月28日(土)



大会は、甲府盆地のほぼ中央に位置する昭和町の「アピオ甲府」で開催されました。大澤聡氏によるオカリナ演奏で心を癒していただいた後、ホスピス協会会長 小笠原文雄先生のご挨拶と、大会長である山梨県医師会介護保険・在宅医療担当理事 小俣二也の開会宣言で大会がスタートしました。

記念講演は大会筆頭に相応しく『川越顧問と小笠原会長に訊く～日本在宅ホスピス協会の歩みと在宅ホスピスへの思い～』と題して初代会長川越博美先生と共に設立の時から二人三脚で歩まれてこられた川越厚顧問、現会長小笠原文雄先生が登壇し、御二人の熱い思いとユーモアが存分に込められた記念講演が開催されました。



基調発題の45分間で「釈迦に説法 四苦を緩和する医療の普及：川越」、「釈迦に説法 なんとめでたいご臨終：小笠原」が発題されました。

川越顧問は、これまでの人生を“誕生”、“老い”、“病”、“死”で捉え、“あるがままのいのち”を認める自らの生き方を通し、死を看取る医療を実践していると語ら

れました。そして緩和ケアは“医の基本理念”であり、四苦“生老病死”に対するケアであり、今一度ホスピスケアの精神に立ち返るべきであることを強調されました。

小笠原会長は、心の通う在宅ホスピスケアを実践し、病を担う方が希望死・満足死・納得死を迎えること、旅立たれた後、関わりのある御家族・御友人も“笑顔のピースサイン”で受容されていること、NHKのWorld Newsにも取り上げられた程のセンセーショナルな出来事が、この日本の地で起きていることを語られました。そして、“寿命”の意味することを仏典の“臨寿終時”と“臨命終時”から紐説き、私たち自身が眼をひらき、心をひらいて今一度見つめ直すべきであることを強調されました。

その後、発題に際して座長から質疑され、川越顧問・小笠原会長より回答がありました。川越顧問は御自身のがん、臨死の体験を通して、小笠原会長は失明に到る可能性の病を通して、在宅ホスピスケアを人生を賭すべきケアであるという確信と希望を語り、また揺るぎない信仰(川越顧問：キリスト教、小笠原会長：仏教)と生きる哲学に貫かれたホスピスケアを実践されていることを語られました。

最後に、川越顧問から小笠原会長への協会の継承にも触れられました。川越顧問は全国各地域で真に在宅ホスピス緩和ケアを実践し、活躍しておられる方々の更なる深化・高揚のために日本在宅ホスピス協会を設立されました。それを引き継がれた小笠原会長は、高品質の在宅ホスピス緩和ケアを、可能な限り速やかに普及・啓発するために御尽力されていると感じました。言うなれば、“在宅ホスピス緩和ケア”という暖かな錦の織物の縦糸と横糸の関係(性)と類似しているかもしれません。

山梨の地で、東西の在宅ホスピス緩和ケアのパイオニアであられる巨匠の御二人が登壇された講演会は、大会に相応しい感動に満ちた60分間となりました。

昼食時には、どちペインクリニックで活動している「アニマルセラピードック」が勢ぞろいし、参加者の皆様と動物との触れ合いによる“癒し効果”を



体験していただきました。

## 《市民公開講座》

「支え支えられる人たちをつなぐ THP(TSM)の活動」

座長:佐藤悦子(山梨県立大学看護学部)

演者:並木奈緒美(ゆうき訪問看護ステーション)

「医療依存度が高く複数化の医師が関わる患者の退院を支援する」

小林博子(つる訪問看護ステーション)

「療養者と家族そして他職種をつなぐ架け橋」

高添明日香(あすか在宅クリニック)

「支え、支えられる人たちをつなぐ THP(TSM)の活動」

★山梨県では岐阜県で養成が進んでいる THP(トータルヘルスプランナー)の活動現場を視察させていただき、山梨県においても平成 29 年度から TSM(トータルサポートマネジャー)の養成をスタートしました。この取り組みの具体的な内容と共に、実際に在宅医と連携した事例から、「地域の専門職がこんなにも協働して療養者を支援しているんだ」ということを改めて知る機会となりました。

## 《ランチョンセミナー》

セミナー1

「大学病院からみた山梨県の緩和ケアの取り組み」

～難治性疼痛・副作用への対処など～

座長:飯島哲也(山梨大学医学部附属病院)

演者:熊倉康友(山梨大学医学部附属病院)

セミナー2「東洋医学で診る終末期」

～漢方薬だけが東洋医学ではありません～

座長:土地邦彦(どちペインクリニック)

演者:中田 薫(中田医院 中国医学研究所)

★いずれも実践に役立つ大変興味深いご講演でした。

午後からは、シンポジウム、ポスター発表、教育講演、分科会、VR 体験を企画しました。

## 《シンポジウム》

「どちペインクリニックの地域と共に歩んできた活動報告」

座長:許山美和(山梨県立中央病院)

山寺秀美(山梨県教育庁福利給与課)

演者:土地邦彦(どちペインクリニック院長)・

スタッフの皆さま

★親仁(院長)、女将(師長)を中心に、「家族と共にゆっくり過ごしていただくことを目指した療養場所の提供」をモットーに活動している、どちペインクリニックや玉穂ふれあい診療所の現場の様子を、より具体的に知る機会となりました。



## 《分科会》

①「ここまでやれる！山梨の多職種連携」

座長:青木志保(山梨県介護支援専門員協会)

演者:中村晴江(甲府城南病院)

関谷宏美(甲州リハビリテーション病院)

★山梨県では専門職 11 団体による「山梨在宅多職種の会」が2016 年から結成されています。この取り組みの紹介と多職種連携の意義について共有することができました。

②「最期まで美味しく食べる」

座長:野田喜明(のだ内科クリニック)

花形哲夫(花形歯科医院)

演者:牛山京子(山梨歯科衛生士会)

藤巻千春(しらゆり訪問看護ステーション)

深澤幸子(山梨県栄養士会)

松本令子(甲州市社会福祉協議会訪問看護ステーション)

★人生の最終段階において「最期まで美味しく食べる」ことは、誰もが望むことではないでしょうか。その実現に向けて、多職種で協働していく意味や手段などについて知ってもらえる機会となりました。

## 《教育講演》

①「ACP とコミュニケーション」

～傾聴とマインドフルネス～

座長:阿部文明(山梨県立中央病院)・

前澤美代子(山梨県立大学看護学部)

演者:高宮有介

(昭和大学医学部医学教育学講座)

★マインドフルネスの体験と共に、困難な状況にも逃げない、向き合う態度についてご講演いただきました。今後の活動の中で活かしていただきたいと思えます。



★疑似体験ができるという前評判のもと、希望者も多く大変盛況でありました。



② 「支え・支えられる社会に向けて国が目指すもの」  
～「支え・支えられる」ことを可能にするための仕組みづくり～

座長：藤井充(山梨県峡東保健福祉事務所)

角田千春(山梨県看護協会)

演者：吉田学(厚生労働省医政局長)

★国の医療政策に深く関わっておられる医政局長から直接に話しを聞けるという、大変貴重な講演でした。将来へのメッセージも込められていたように思います。

#### 《ポスター発表》

① =看取り(その1)=

座長：望月まゆみ(山梨県福祉保健部医務課)

② =意思決定=

座長：丹沢貴子(ますほ居宅介護支援事業所)

③ =看取り(その2)=

座長：守屋法子(山梨県福祉保健部)

④ =緩和ケア(その1)=

座長：田中美江(ゆきき訪問看護ステーション)

⑤ =地域における連携=

座長：小林司(石和温泉病院訪問リハビリテーション事務所)

⑥ =緩和ケア(その2)=

座長：藤原恵(甲府訪問看護ステーションすずかけ)

★32演題の応募のうち、30演題の発表をいただきました。

#### 《VR 体験》

「VR 認知症体験プログラム」

～症状の一人称体験を通じて深める理解～

座長：山内貴由(山梨県薬剤師会)

演者：黒田麻衣子(株式会社シルバーウッド)

#### 《大会懇親会》

第一日目が終了後、アピオ甲府タワー館に会場を移し、いよいよ「チーム山梨として精いっぱいおもてなしする！」第2弾の懇親会のスタートです。小俣大会長、小笠原会長の挨拶に続き、山梨県福祉保健部の小島部長様より祝辞を頂戴し、日本在宅ホスピス協会相談役の永谷計先生の乾杯のご発声を合図に懇親会が開宴となりました。

最初にご登場いただいたのは、ソプラノ歌手を中心としたミニオーケストラの方々です。透き通る歌声や音楽に包まれながら山梨特産のワインや美味しい食事も味わっていただきました。会の途中では山梨にゆかりのある特産品(甲州印傳、ワイン、ぶどうジュース、ぶどうの詰め合わせ、信玄タオルなど)を景品としたじゃんけん大会や抽選会を行い、多くの方々にプレゼントをお渡しすることができました。そしてラストを飾っていただいたのは、県内にお住いのマダム集団が繰り広げる「3チームによるフラダンスの競演」です。

衣装の華やかさもさることながら、お一人おひとりの醸し出す艶やかさに会場中が魅了されました。



最後には、次期開催地の栃木県の皆様から大会開催への熱き思いを込めたご挨拶をいただき、懇親会は名残惜しさを残しながら第二夜も更けていきました。



## 【大会最終日】9月29日(日)

### 《県民公開講座》

「支え支えられて、自分らしく 最期まで“生きる”“暮らす”」

座長:長田忠大(長田在宅クリニック)

泉宗美恵(山梨県立大学看護学部)

コメンテーター:小笠原文雄

(日本在宅ホスピス協会々長)

シンポジスト:秋山正子(株式会社ケアーズ 白十訪

問看護ステーション統括所長)

「暮らしの中で生き生きて逝くを支える」

内藤いづみ(ふじ内科クリニック院長)

「いのちの主人公のあなたをどう支えたらいいですか？」

古屋好美

(甲府市福祉保健部健康支援センター室長)

「“想いのマップ”で目指したい地域まるごとの支え合いコミュニティ」

込山雅秀(甲府市上小河原自治会長)

「住んで良かった町、上小河原に“を目指して”」

上野千鶴子(社会学者 東京大学名誉教授)

5名のシンポジストのご発表の後、小笠原会長にも加わっていただき、会場にお越しの県民の皆様も巻き込んだの討論となりました。地域で生活し続ける人々とその家族へのよりよい支援体制について、ご参加下さった皆さまと共に改めて深く考える機会となったのではないのでしょうか。

### 《閉会式》

いよいよ2日間の大会も終了の時を迎えました。小笠原協会長のご挨拶では恒例の会場全体での「イエーイ」ポーズの記念写真を撮影し、小俣大会長の閉会のご挨拶の後、次年度開催地である栃木県の渡辺邦彦大会長から第23回全国大会の日程等を伺い、無事に閉会の運びとなりました。



### 《終わりに》

1年半前に結成されました日本在宅ホスピス協会全国大会in山梨の実行委員会では、昨年の金沢大会に多くの委員が参加し、“大都会金沢”での大きな会場や立地条件の良さ、企画・運営の素晴らしさに圧倒されていました。参加した誰もが、人口81万人の小さな山梨県でいったい何ができるだろう・・・しばらくは企画案も浮かばない日々が続いていましたが、真っ先に決まったことは、「2019年10月消費税が10%に上がる前に大会を開催しよう」という目標でした。そこからはメインテーマ「支え、支えられ自分らしく生きる」に沿った企画検討に慌ただしく毎日が過ぎていきました。この時に何よりも心強かったのは、実行委員一人ひとりの協力体制でした。苦労も多かった分、大会が終了した今では今後も仲間として協力し合えることへの期待が膨らんでいます。

また、大会運営を通し忘れてはならないことは、在宅ホスピス協会が目指す、「最期の時を自分の望む所(家)で、

自分らしく過ごしたい」を支える仲間づくり、スタッフの育成、一般の人々を対象にした広報・教育活動などを推進していくということでした。今回、この大会に関わることで、改めて全国で活躍されている専門職の皆様の熱き思いに触れさせていただきました。今皆様が行っていること、行おうとしていることは、将来の私たちのために今できることを一歩一歩進めているのだと思います。専門職である私たちだからこそできること、本人・家族だからこそ決められることをマッチングする環境作りと仲間作りが大切であることも学ばせていただきました。

最後に、「チーム山梨のおもてなし」としましては、至らない点も多々あったかとは思いますが、ご参加いただいた専門職の皆様や一般県民の方々のご協力があり、盛会のうちに大会を終えることができました。ご協賛、ご寄付をいただいた皆様、展示ブースを設置していただいた企業の皆様、アピオ甲府のスタッフの皆様にも厚くお礼申し上げます。

令和2年の12月には、次年度開催地栃木県でまたお会いできることを楽しみにしております。このような大会運営に関わらせていただいたことに、実行委員ならびに協力員一同心より感謝申し上げます。

#### 追伸…小笠原より

山梨大会実行委員の皆様 お疲れ様でした。令和最初の大会が盛会のうち終了できたことを感謝いたします。

壮大な富士山、石和温泉、おいしいワインを満喫し、“癒しを提供するものは自ら癒されなければならない”を実践できました。

THP（トータルヘルスプランナー）の活動を山梨県の行政や看護協会、多職種の方々41名がバス一台で小笠原内科へ視察に来られて、その後TSM（トータルサポートマネージャー）の養成に繋がったこと、大変嬉しく思っています。

今大会ではTSMの方々活躍されていましたね。今後THPの認定もして頂き、ますます活動の場を広めていってください。

『なんとめでたいご臨終』が全国各地に広がることを願い、来年の宇都宮大会につなげて頂こうと思います。



次回…

第23回 日本在宅ホスピス協会  
全国大会 in 宇都宮

2020年12月4日(金)～6日(日)



日本在宅ホスピス協会

〒500-8455 岐阜市加納栄町通 5-12  
TEL058-273-5250 FAX058-273-6063  
E-mail n-hospice@n-hha.com  
<http://n-hha.com/>